

追悼の言葉

冬を告げる立冬も間近と言うのに、沖縄本島中北部の山野では蝉が泣いておりますが、今日、ここ摩文仁の丘には沖縄で新北風と呼ばれる北風が吹き、秋の気配が漂っております。

本日ここに第 52 回航空関係戦没者並びに航空機材を祭る空華之塔及び第 36 回陸軍飛行第 19 戦隊飛燕特攻之碑、並びに第 28 回南方航空輸送部戦没者慰霊碑の合同慰霊祭を挙げるに当たり、県外はもとより日頃ご多忙のところご参列を賜りました皆様方を前に、甚だ潜越ではございますが三慰霊碑を代表して謹んで追悼の言葉を捧げます。航空戦に始まり航空戦で終わりを告げた太平洋戦争はそれこそ膨大な人員と物量の消耗戦でもありました。緒戦に勝った我が国も圧倒的な物量を背景にした米英連合軍の前に如何ともし難く遂に航空戦を以ってする肉弾特攻となりました。陸海軍機はもとより民間航空の別無く多くの国民が戦列に参加し前線後方の別無く多くの人達が散華し亦多くの機材が運命を共にしました。戦後 70 年私共は多くの方々の死によって償なわれた平和の尊さを身に沁みて感じております。

今日本を取り巻く周辺は決して平穏な状態ではありませんが、私共は諸霊らの払われた尊い犠牲を無にすることなく世界の平和達成に一步でも近づけるよう己れの職分によって努力を続ける所存であります。

本日ここ摩文仁の丘で生き延びた私共がご案内の皆様方をお迎えしてささやかな慰霊の式典を挙げるに当たり諸霊等のご冥福を祈ると共に祖国と郷土の繁栄にお加護を賜らんことを。

なお、最後になりましたが先般「日本」と「台湾」＝日台平和基金会台湾事務所より今次大戦に日本軍の一員として参加戦死された台湾の方々の慰霊碑の建立地として空華之塔敷地内に借地申込みがありました。御列席の皆様にはご存知とは思いますが戦前の台湾には多くの日本陸海軍基地があり、去った大戦では陸海軍航空機の大半が台湾基地を経由してそれぞれの南方戦線へ展開し一方、傷を負った人も機体も台湾で傷の癒えるまで台湾の人々のお世話になりました。空華之塔に合祀されている沖縄特攻 1 号の伊舎堂用久中尉を長とする陸軍誠 17 飛行隊そして同じく飛行 19 戦隊飛燕隊も台湾宜蘭基地での訓練後八重山の白保基地から出撃しており戦時中多くの軍用機や民間機が台湾のお世話になっております。私共は同じ航空人の一員として「台湾慰霊塔」の建立地の提供が戦時中の御恩返し的一端となり日本と台湾の交流・日台親善の懸橋ともなれば是に過ぎるものではありません。以上 ご報告かたがた追悼の言葉と致します。

平成 27 年 10 月 31 日

沖縄翼友会会長 玉那覇 徹次氏（濱松 昭氏代読）